



たきしたまさふみ

滝下昌文 さん

- 1956年 7月 7 日生まれ
- 1968年に水俣病と認定される。
- 胎児性水俣病患者。
- 水俣病患者や障害者の苦労を理解してもらい、自立した人生を送ることを願って、自らの体験を語る。
- 2019年5月から水俣病資料館の「語り部」となる。

水俣市袋在住

僕は、水俣湾の南側に位置する袋地区の茂道で生まれました。5人兄弟の4番目です。当時、父は船を造る仕事をしながらみかんや漁も兼業していました。

幼少の頃は病院で過ごすことが多く、訓練の記憶しか残っていません。でも、その厳しい訓練を頑張り三輪車を漕げるようになったことは嬉しい思い出の一つになっています。小学5年生頃まで入院生活は続きました。学校では、病気のことだからかわれたり、いじめられたりしてくやしい思いもたくさんしました。中学校卒業後は、仕事もできず、病気の症状も、これまであまり感じなかった関節の痛みや、頭痛がひどく夜も眠れないことも多くありました。この頃は、身体的にも精神的にもつらい毎日を過ごしていました。

19歳のとき、仲間たちと若い患者の会を立ち上げ、石川さゆりさんのコンサートを企画しました。当然、周囲は反対をしましたが、僕たちは、仕事をしたい、人として生きる道をつくりたいという思いを強く持っており、メンバーと街頭に立ち、チラシやポスターで宣伝し、チケット販売に奔走しました。結果は大成功でした。このことが大きな自信となり、反農薬水俣袋地区生産者連合でみかん選別などの仕事をしながら、全国キャラバンに参加をしたことは、貴重な経験となっています。

平成5年に結婚をし、翌年には長男が生まれました。現在は息子と二人で暮らしています。病気の症状も進行し、思うようにならない日々が続きますが、精一杯生きる姿をみせることが、息子や誰かの支えになればいいと思っています。